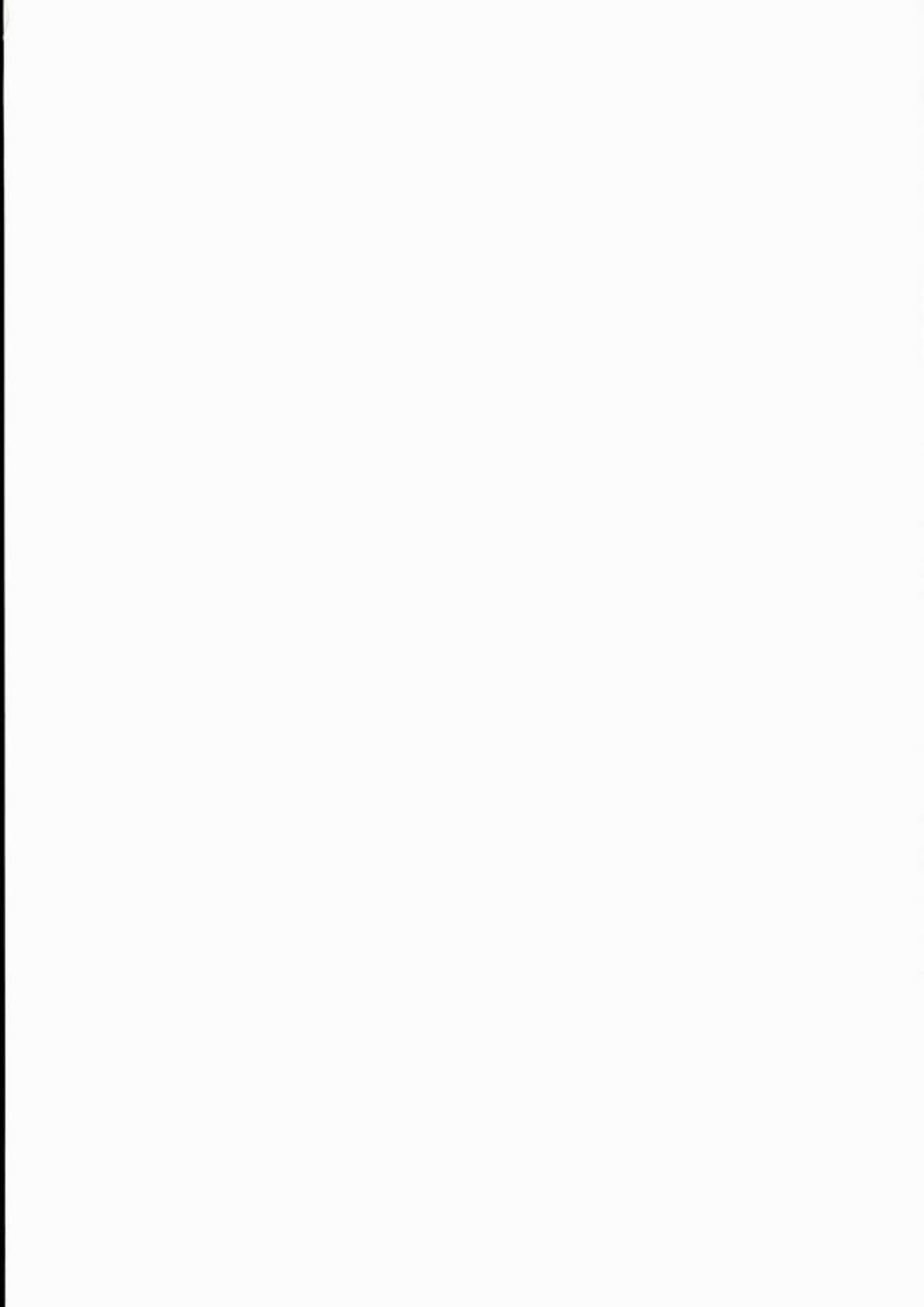




Iiyu in Wonderland

いゆ  
わん  
だら  
ら  
ん



# ■イリヤちゃんの優雅な前書き



ルールは  
こんな感じよ！

- シナリオ番号  
ページの端についているAとBは  
上段と下段を表します。  
この場合3Pの下段という事です。
- シナリオ本文  
そのシナリオでの士郎たちの  
行動が書いてあります。

●3P・B

「シロウ、イリヤスフィード、とうしましたか？」  
「セネター、ねこちゃん見なかった？」  
「... ですか。...」  
「... ねこがニホニホなえていましたが...」  
「... わもネコネコ言っていましたね！」

① 聞いてみよう→4P・A' ●腰ぬえが聖人ゼー→10P・A' ●セイバーに協力を頼む→6P・B'

■選択肢  
指示されたページに進み、ゲームを読み進めていきます。



というわけで  
不思議の冬木に  
出発よ!

がんばろうね、  
シロウ!

パピューン

ゲーム本編は3PAから!

スペシャルサマナーはハルトモくん。ありがとうー!!



豪華ゲスト陣による  
素敵な私がいっぱい、  
きつとシロウもめろめろよー!

きゃー!!

- こんにちは、皇帝龍です。
- 今回はHP上で書いている「こねこ日記」を題材にしてゲームブックを作ってみました。
- なんとなく「嫌いな雪の子猫を拾って大事にしてるイリヤちゃん」というあたりで理解いただければ、よし。
- ありえないゲストの面々にお引き受けいただき、当人としても夢の様な本になりました。楽しんでいただければ幸いです。
- それでは良い旅を!

## ゲストINDEX (敬称略)

- 荒木風羽 :10PA/10PB ● いずみやみその :12PA/20PA
- 風沫 :25PA ● 神崎がるな :26PA ● 黒神遊夜 :5PA
- 高崎ゆうき :4PA/26PB ● 天空すふいあ :22PA/8PB
- 櫻太助 :6PA ● 佐々木少年 :6PB ● しろがね :14PB/27PB
- はいずみなつき :15PA: ● はいずみなりゆき :7PA/7PB
- 日向たがし :16PB/20PB/24PB ● 富樫義裕 :8PA/17PB

## ゲストさま近況コメント (五十音順)

**荒木風羽** さん ひーひーご遠慮お掛けしました…!でも楽しかったです!!

**いずみやみその** さん 総切オーバーで大変御迷惑を(すいませ…-1)セイバーモイリヤモラフです。後!

**風沫** さん ゲームブックの次はボードゲームが欲しいです。「イリヤとカタン」みたいな。(w

**神崎がるな** さん 断続中に調べ物をしようとしてネットを開くと止まらなくなります。困った。

**黒神遊夜** さん ジェイスガーデンのモツツアレラとトマトのバスタにはまっています。メッシュヤーツ!

**櫻太助** さん 目は Fate 物描けないがなーと思ってのぞいて見せているだけでした!ありがとうございますー!!

**佐々木少年** さん fate本編並みに BADENDがあるのかな?かな?とワクワクしています。

**高崎ゆうき** さん 素しろうな匂いに語られ来てみればしがし。ここはセルフの社交場。誰が僕にトレスを!

**天空すふいあ** さん 普段あまり描かないキャラを描かせてもらえて楽しかったです!

**しろがね** さん 最近海外ドラマにハマってます。アニメより一話一話が長いので時間を時間があうあう。

**はいずみなつき** さん お問い合わせありがとうございます!指巻様の柄は指定されたものです。念のため(笑)

**はいずみなりゆき** さん コメントネタがいつもないので、荒木様も先生みたいにとマトを育てようかと思っています。

**日向たがし** さん こんな貧弱な本に参加できて幸せです。かわいいイリヤがいっぱいだよー!

**富樫義裕** さん お問い合わせありがとうございます。予定よりメリハリの無い絵面になってしまて。反省。

「シロウ、ねこちゃんいなくなっちゃったの。知らない？」



●探すのを手伝う→3P・Bへ ●そのうち帰ってくるだろ→25P・Aへ



「シロウ、イリヤスフィール、どうしましたか？」  
「セイバー、ねこちゃん見なかった？」  
「ネコ、ですか。  
ふむ、朝方桜がニホンを与えていましたが……。  
そういえばタイガもネコネコ言っていましたね。」  
「むむ……」

●柵に聞いてみよう→4P・Aへ ●腰ねえが犯人だ→10P・Aへ ●セイバーに協力を頼む→6P・Bへ



「ねこちゃんですか？  
ニボシあげたあと  
ご機嫌そうに外に出て行きましたよ」  
「うー、捕まえといてよ馬鹿サクラ！」  
「む、馬鹿ってなんですか！  
先輩、私馬鹿じゃないですよね！？」  
「サクラ馬鹿だもん。ね、シロウ！」

●相が正しい→26P・Bへ ●イリヤが正しい→24P・Bへ ●そんな場合じゃないだろ→6P・Aへ



「なんだ、小僧か」  
「アーチャー……何してんだよ、睨そうだな」  
「……まあ反論は出来んな。探し物か？」  
「アーチャー、ネコを見ませんでしたか？」  
「子猫だったか、……ふむ、では暇つぶしに  
付き合ってもらえるかね？」  
「……何？」

●アーチャーの暇潰しに付き合う→5P・Aへ



「知っているのか、アーチャー？」  
 「私は弓兵。目がいいのだ」  
 「ほんとに暇な奴だな……」  
 「で、何をすればいいんだよ」  
 「くく……ではなぞなぞに答えてもらおう。  
 パンはパンでも食べられないパンはなんだ？」

●セイバーに答えさせる→18P・Aへ ●イリヤに答えさせる→27P・Aへ ●自分で答える→13P・Aへ

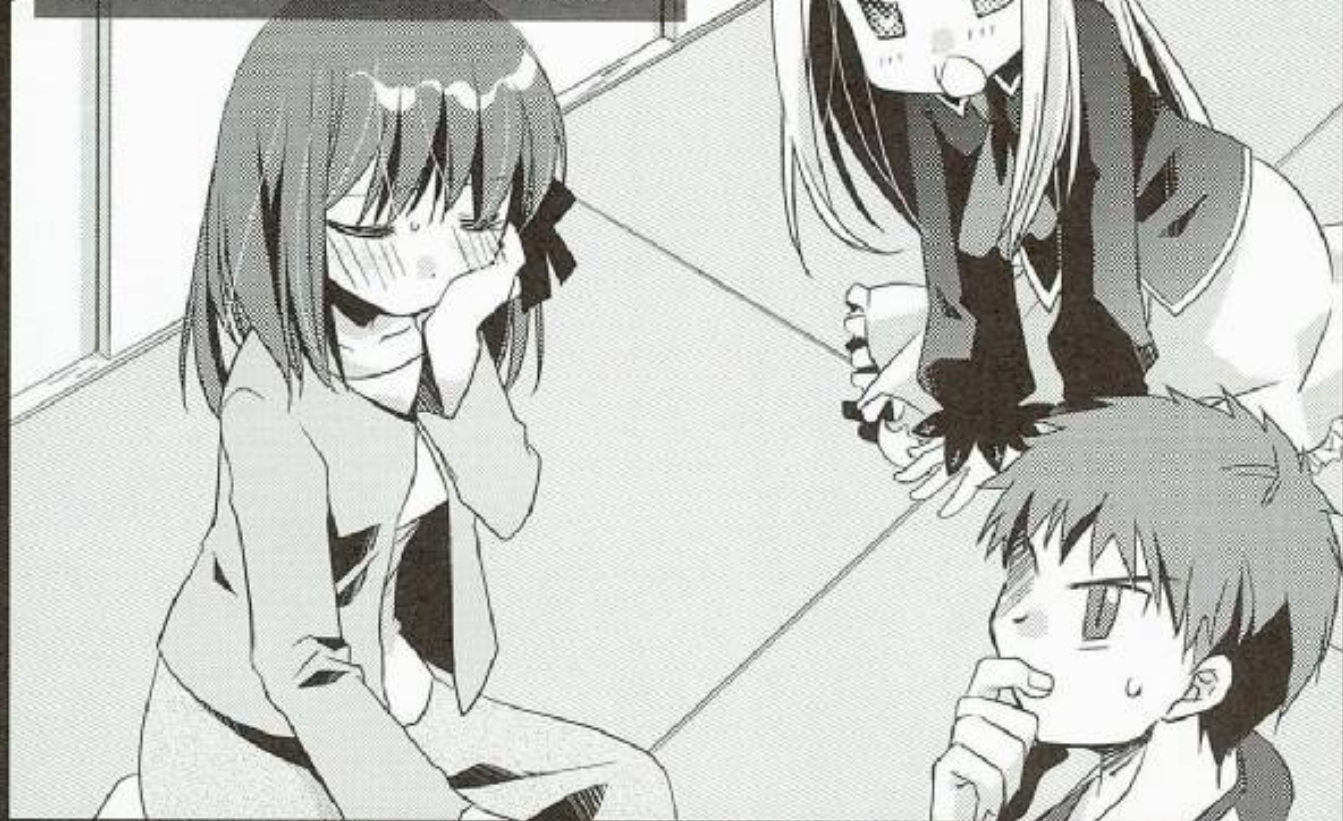
## ●5P・B



「バゼットさん、バゼットさん」  
 「なんですか、これから戦おうという時に……」  
 「これで手を打ちましょう」(写真)  
 プバッ！  
 「———士郎君。残念です」  
 「こら———！！」「シロウ、こうなったら私が……！」

●セイバーに行かせる→8P・Aへ

「う、大人気なかったです……」  
 「むー、そんなグレーなシロウ嫌い〜！」  
 「しかし外か……」  
 「あ、ライダーなら何か知っているかも」



●ライダーに聞きに行く→9P・Aへ



「私はシロウの剣ですから。  
 微力ながら力になりましょう」  
 「それじゃあセイバー、  
 ねこが行きそうなところに心当たりは無いかな？」  
 「そうですね……相手は子猫です。  
 さほど遠くには行かないでしょう」

●居間を探す→12P・Aへ ●道場へ→4P・Bへ





「猫を探して随分遠くまで来たな……」  
 「シスターがネコを連れ去ったのでしょうか」  
 「うー、あのシスターならありえるかも」  
 「そうです。カレンは外道ですから」  
 「聞こえているわ、バゼット」

●カレンと話す→7P・Bへ

●7P・B



「ネコがどうのと言っていましたが……」  
 「そうなんだ。カレン、ねこを知らないか？」  
 「……ふふ、知っているわ。教えてあげてもいいけど、  
 そこの人間核弾頭の左腕が条件よ」  
 「——な。冗談ではありません！  
 士郎君からも何か言って下さい！」

●左腕くらいいいじゃないが☆→10P・Bへ ●もうちょっとまがらないか→9p・Bへ

「おおおおおっ!!」  
 「はあああっ!!」  
 「やー。ああ、めんどくさい……」  
 フラガラックも出させなければ怖くないのだが、  
 そうなると二対一では百日戦争。  
 「シロウ〜……ねこちゃん……」  
 「今日は諦めてくれ……イリヤ」



●BADEND



「ライダーの自転車楽しいね!」  
 「はああ……ついていくほうは大変なんだぞ」  
 「……あ、イリヤスフィール様」「イリヤ」  
 「セラ、リズ、見つかった?」  
 「残念ながら……」「ごめん、イリヤ」  
 「どうするか……」

●ランサーに聞いてみる。花屋へ→11P・Aへ ●商店街の皆様に聞いてみる→12P・Bへ

「ねこですか？  
この辺りでは見かけませんでしたか」  
「すると屋敷の外か……？」  
「少なくとも屋敷周辺にはいませんよ」  
「……ライダー？」  
「……こほん。子猫でしたら  
そう遠くには行かないと思いますが」



●土蔵へ→14P・Aへ ●風呂場へ→26P・Aへ



「ならば自らを差し出しますか？  
とてもいい声で啼いてくれそうです……ふふ」  
「う……」  
「おのれ、マスターを慰み者にするか——！」  
「ついでにランサーも返して頂きます！」  
「全く……ギルガメッシュ、任せました」  
「電話中なんですけど……」  
「はあ、それじゃ由紀香また後で」  
「——！」

●セイバーを行かせろ→23P・Bへ ●バゼットを行かせろ→5P・Bへ ●廿の子には行かせられない→21P・Aへ

「ネコ〜？ もう眠いんだから勘弁してよ〜」  
 「どうせタイガが取ったんでしょ！」  
 「見て判らないの〜イリヤちゃん。  
 ほらほら、持ってないですよーだ」  
 「むむ………桜のほうに聞いてみるか」  
 「ハハハ〜イ☆」



●届のところへ→4P・Aへ



——ズバキヤツ☆

「殴りますよ！」

……ってこれ、殴られてますよね……どさり

「キヤ〜！？ シロウ！！」

「おのれメイガス……！ 私が相手だ！！」

●DEADEND



「おう、どうしたよこりやまた大勢で」  
 「ランサー、ねこちゃん探してるの」  
 「ねこちゃん？ どんな猫だ？」  
 「ちいさい子猫で、しましまよ。尻尾が短いの」  
 「ふん……ん？ そういやライダーあんた……」  
 「——！ 花を戴きましょうか」  
 「毎度あり！」 「——？」

●ライダーを問い詰める→18P・Bへ ●花を買ら→20P・Bへ



「これはこれは、千客万来よな」  
 「ごめんなさい小次郎さん、下で偶然会っちゃって……」  
 「くは、美形ジャン！ 格好は奇天烈だがマジ美形！」  
 「落ち着け時の字、だがこれは……」  
 「聞かせて欲しいな、由紀香」  
 「ち、ちがうから……うう」  
 「小次郎、大勢で悪いな」  
 「かような日も良かろう。で、何用だ、セイバーのマスター」

●子猫を知らないか→23P・Aへ ●20PBを通っている→22P・Aへ

ぐきゅるるる……



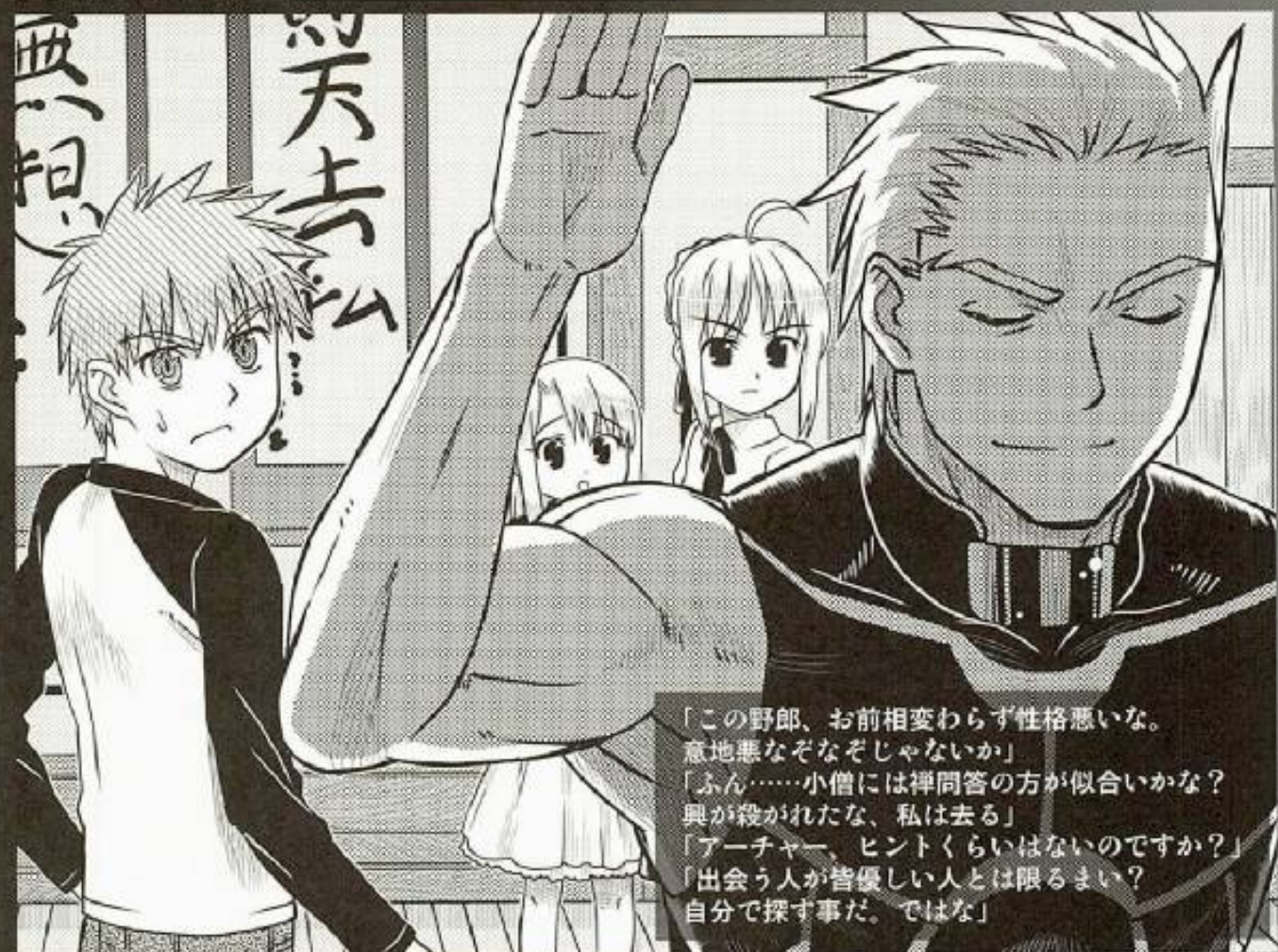
ぐきゅるるる……  
 「む……」  
 「セイバー、はしたないわよ」  
 「シロウ、腹が減っては戦は出来ない。  
 ここは一つ腹ごしらえをしませんか？」

●ご飯を作る→20P・Aへ ●探索続行→15P・Aへ



「ちょっと待て！ なんて僕が皆様扱いなんだ！」  
 「出ただけ善しとせねばな……阿々々」  
 「このまま気配遮断かと思いましたがよ、魔術師殿」  
 「救济選択肢っぽいなコレ……」「感謝しなさい」  
 「うるさいな、さっさと聞けよ。それとも僕の  
 情報なんて当てにならないって言うのかい？」

●とりあえず聞いてみる→15P・Bへ ●やっぱランサーの所へ→11P・Aへ



「この野郎、お前相変わらず性格悪いな。  
意地悪なぞなぞじゃないか」  
「ふん……小僧には禅同答の方が似合いかな？  
興が殺がれたな、私は去る」  
「アーチャー、ヒントくらいはないのですか？」  
「出会う人が皆優しい人とは限るまい？  
自分で探す事だ。ではな」

●困った→13P・Bへ

●13P・B



「くっそ、相変わらず嫌な奴だな」  
「どうしよう、シロウ……」  
「他のところへ行ってみますか」

ん〜

●居間を探す→12P・Aへ



「うーんいないな……」  
 「ねこちゃん何処行っちゃったのかな……」  
 「……太郎」「ライダー？ どうした」  
 「いえ……私も暇ですし手伝おうかと」  
 「ホント！？」  
 「わーい、ライダーがいるなら速くまで探しにいけるね！」

●柳洞寺へ→14P・Bへ ●商店街へ→16P・Aへ

●14P・B

「しかし……  
 こんなところまで子猫がくるもんかね」  
 「……」  
 「迷子……ねこちゃん大丈夫かな」  
 「あれ、衛宮くん？」  
 「お、三枝さん」



●三枝さんと話す→17P・Aへ





「うー……しかし」「ほら探すぞ」  
 「おはようございます……」  
 「あ、バゼットさん。ねこちゃん知らないか？」  
 「ネコ……？」  
 「そういえば昨日、カレンがネコがどうのと……」  
 「カレン……教会か？」  
 「あ、行くなら私も行きます」

●教会へ行こう→7P・Aへ

●15P・B



「慎ちゃんのヒントコーナー！  
 この本はキーポイントさえ抑えれば最後まで辿り着けるぜ。  
 ここで得られるヒントは一つ！  
 お前のサーヴァント、それが重要さ！」  
 「……え、終わり？」「……少ないな、ヒント」  
 「HAHAHA☆ タイガー道場なんてないからね！  
 ちなみにこいつは僕専用のENDさ！  
 慎ニルートって奴だよヒャッホウ！」

●BADEND



「……商店街ですか。  
流石にあそこまでは行かないと思いますが」  
「うーんそれもそうだが……  
イヤ、どうする？」  
「探せるところ全部探したいんだけど……」

●それでも商店街へ→8P・Bへ ●柳洞寺へ→14P・Bへ



「ななな、なんですと——！？」  
「え、シロウ——！？」「……士郎」  
「なんと、士郎君弟が欲しいと？ それはまた……」  
「い、いや、何選んでるんだ俺は。今のは冗談です冗談」  
「衛宮……俺は、その、どうしていいか……」  
「シロウ最低、馬鹿馬鹿！ もう知らない！」  
「サクラというものがありながら……死になさい」  
「ちゅ——！？ うわまで馬鹿本気で死ぬ——！？」

●一成？END



「これから小次郎さんのところに行くところなの」  
 「……あいつら連れてか？」  
 「チッ、気付かれたか……！」「やるな、衛宮」  
 「蒔ちゃん、鐘ちゃん……？」  
 「相手いるなら紹介しろよなー！  
 寂しいじゃんかよ〜」  
 「ち、違うよう！ 小次郎さんは、その……」

●三人娘と一緒に山門へ→11P・Bへ ●三人娘は放って境内へ→19P・Aへ



「おほほほほ、  
 そんな都合良く行くわけ無いでしょ——！」  
 「あーなんとなく予想はしてましたよ！！」  
 「——ならもう少し考えて答えなさい」  
 「も——シロウの馬鹿——！」



ふ——簡単ですね。答えはフライパンでしょう！」  
 「はほう……君はあれがパンに見えるのかね。  
 流石はセイバー、最優のサーヴァントだな。恐れ入った」  
 「……な。引っ掛けましたね、アーチャー……！」  
 「さて……私はありのままを評しただけだが、  
 即断が良いが愚直なのは考え物だな、騎士王？」  
 「貴様——！」「な——待てセイバー——！」  
 「くく、よい暗つぶしになりそうだ……！」  
 「シロウ、ねこちゃん——！」

●BADEND



「ライダー、なんか変だぞ？」  
 「……………！ 用事を思い出しましたので。では」  
 「あ、ライダー！？」「行っちゃった……」  
 「ランサー、何を見たんだ？」  
 「さてな。女は秘密が多いほうがおもしろえだろ？」  
 「はあ……振り出したなこれは」

●BADEND



「おお、衛宮ではないか」「やあ士郎君」  
 「おっす一成。霧観さんもご無沙汰してます」  
 「こんにちは」「……………」  
 「これは両手に花ですなあ！」  
 「して衛宮、お山に何用だ？」

●キャスターに会いたいんだが→19P・Bへ ●一成に愛に来た→16P・Bへ



「宗一郎様との愛の巣に入ってくるとは……  
 覚悟は良いわね？」  
 「……なんのだよ。  
 キャスター、子猫を探してるんだけど……」  
 「へえ、まあ坊やには借りもあるし客かじゃないけど」  
 「お、話がわかるな」  
 「で、どうして欲しいの？」

●ヒントをくれ→21P・Bへ ●22は一発子猫を召喚→17P・Bへ ●葛木先生との愛の日々を問く→22P・Bへ

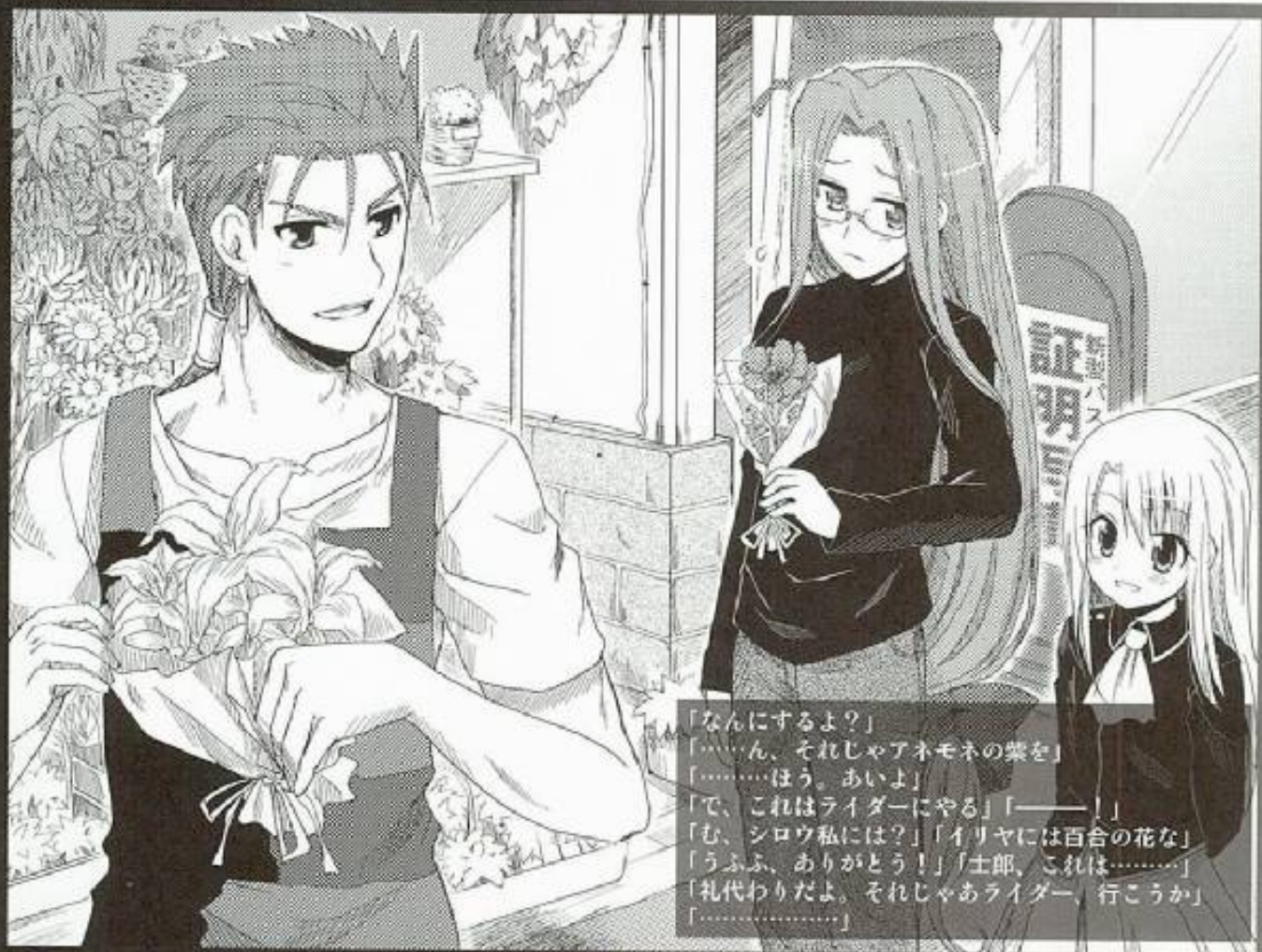
もっちゃんもっちゃん

「セイバー、まだ食べるのか……？」  
「腹ごしらえですから……もぐもぐ」  
「うわーん、シロウ、ねこちゃん〜！」  
そして夕日は落ちていく……



●セイバーEND

●20P・B



「なんにするよ？」  
「……ん、それじゃアネモネの葉を」  
「……ほう、あいよ」  
「で、これはライダーにやる」「……！」  
「む、シロウ私には？」「イリヤには百合の花な」  
「うふふ、ありがとう！」「士郎、これは……」  
「礼代わりだよ、それじゃあライダー、行こうか」  
「……」

●柳洞寺へ→14P・Bへ



ハグシャ!  
 「衛宮さん馬鹿ですね……」  
 「あー、なんかこういうの久々………がくり」  
 「……連れて帰ります」  
 「手馴れてますね、セイバー」  
 「馬鹿シロウー! 何してるのよー!」  
 うえーん、ねこちゃん〜!」

●DEADEND



「ここで上げられるヒントは二つね、  
 重要なのは遠坂のサーヴァントと、  
 イリヤスフィール、貴方が答える事」  
 「——アーチャーと、私?」  
 「そ、後一つのヒントは間桐の坊やが知ってるわ。  
 まあコレだけでもいけるだろうけど、  
 暇なら探して見なさいな」  
 「ありがとう、キャスター」

●BADEND

「子猫を知らないか、小次郎」  
 「ふむ……私には心当たりが無いが、  
 ライダーのサーヴァントよ。  
 そなたにはあるのではないかな？」  
 「——！」「……………」  
 「花言葉……貴方を信じて待つ、でしたね。  
 士郎、イリヤスフィール。  
 申し訳ありませんでした……」  
 「ふえ、ライダー？」



●ライダーの話を聞く→24P・Aへ



「もう坊や……！ そんなに聞きたいの！？」  
 「あ、いや、その……はい」  
 「宗一郎様、私達のラブラブ新婚生活が  
 聞きたいそうですわ！！」  
 「それは激しくか？ それとも優しくか？」  
 「すみませんお願いですから優しくをお願いします……」  
 「もう坊やったら見直したわ！  
 じゃあこの葛木！キャストが！お話ししてあげる！！」  
 「し〜ろ〜う〜〜！！」「……………」  
 「私と宗一郎様の馴れ初めはね！ それは……………」

●キャスト？END





「ふむ……生憎ここから助けの身でな。私より女狐に聞いたほうが良いやもしれん」  
 「それより御仁、由紀香とはどのような？」  
 「茶飲み友達、といったところか」  
 「むぐ！」「あう……」「むう……」  
 「だが、朽ちたる我が身には過ぎるほどの友人よ。由紀香殿に会えたのは僥倖であった」  
 「あ……」  
 「なんだよ、あちいなー！」「ふむ、脈アリだな」

●邪魔者は去りますが→19P・Aへ

●23P・B



「む、セイバーさん出すのか……  
 ここは分けませんか？」  
 「……な」「……へ？」「……む？」  
 「戦いは勝てる時にする主義なんです。  
 いいですよ、マスター？」  
 「……仕方ありませんね、彼の読み勝ちです」  
 「やった～～！じゃあねこちゃん返してよ！」  
 「……くす、ネコは此処にいますよ」

●渡された住所に行ってみる→25P・Bへ



「子猫を籠に乗せて商店街を巡っていたのです」  
 「ライダーが犯人だったの!？」  
 「はい……その後、家に帰ってきたとき、  
 籠から子猫が逃げてしまい……」  
 「それで庭を探していたのか……」  
 「う〜、ねこちゃん見つかるまで  
 私のサーヴァントだからね!」  
 「……はい」「やれやれ……」

●ライダーEND



「先輩……」  
 「わーい、シロウは私の味方だもん〜!  
 ばかばか、桜の馬鹿〜!」  
 「お、おいイリヤその辺に……」  
 ゴゴゴゴゴ……  
 「……〜?」

●DEADEND



「うー……そうかな。じゃあシロウ、お昼寝～」  
「はいはい了解」

●イリヤGOODEND

●25P・B



「ネコさん、ねこちゃんいますか——！？」  
「なによなによ、やぶから棒に。ネコは私だけけど？」  
「ねこちゃん、私の猫なのよ」  
「はあ。うちは猫を扱ってないし、ネコは私だけだけど」  
「……騙された？」  
「最初から外れだったのかもしれない……」  
「……バイトしてく？ エミヤん」

●BADEND



「へ？」  
「お」  
「あ、凛」  
「つきゃ————!!!」  
「出たァ————ッ！」  
「遠坂さんのガンダ撃ちたァ————ッ!!!」

●凛END



「シロウの馬鹿ー! もういいもん!」  
「あ、イリヤー!?」  
「自業自得です! 先輩、お夕飯の支度始めましょ!」  
「ちょ……待ってくれ」  
「む……」  
「先輩私を選んでくれたんじゃないんですか……?」  
「ぐむ……了解、桜を手伝う」  
「えへ……はいっ!」

●桜END



「そうね……腹りきったパンは食べられないわよね」  
 「……ふむ。なぞなぞなのだが間違っていないな。正解だ」  
 「それで良いのですか？」  
 「暇潰しだからな。  
 まさかプライバンなどとは言うまい、セイバー？」  
 「な、何を馬鹿な……」  
 「礼だ、教えてやろう。ねこちゃんは藤村大河が抱えていたぞ」  
 「藤ねえが……！？ 何処にいた？」  
 「確か縁側で昼寝をしていたが」

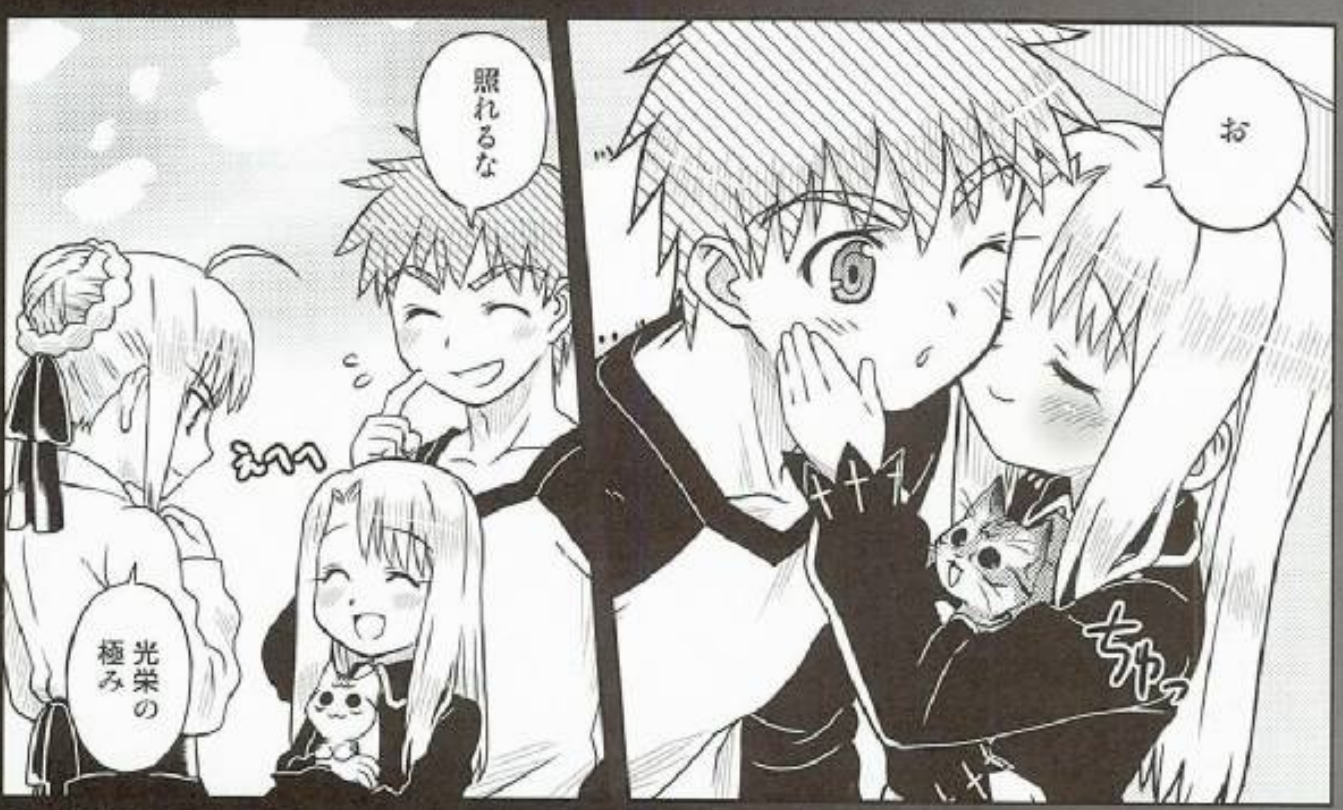
●縁側へ→27P・Bへ

●27P・B



「タイガー~~~~~!!」  
 「ひっ、な、何よ!?!」「ねこちゃん返してよ!」  
 「何を馬鹿な……私ねこちゃんなんて持ってないですよ?」  
 「タイガ、嘘は良くありません。  
 女性には隠すところが多々ある。スカートの中でしょう」  
 「——え——」  
 「藤ねえ——!!」「タイガー~~~~~!!」

●藤ねえをとつちめる→28P・Aへ



■興付 印刷：しまや出版 発行：ST/VL/A 発行日：8/19 mail：parusu1@mail.goo.ne.jp



—— Thank you for playing to here.  
The story is an end in this. I am happy if A have you enjoy it.

**HAPPY END!**

Presents by  
**STPARUSU**

—The kitten which Illya kept has disappeared.  
Please please lend your power to her.



荒木国羽さん  
いずみやみぞのさん  
風泳さん  
神埼がるなさん  
黒神遊夜さん

参加作家様

高峯ゆうきさん  
天空すかいあさん  
櫻太助さん  
佐々木少年さん  
しろがねさん

はいずみなつきさん  
はいずみなりゆきさん  
日向たがしさん  
富樫葵裕さん  
皇帝麗

まじろくぽ  
**イリヤちゃん**  
Illya in Wonderland

